



平成29年度 地域日本語教育 スタートアッププログラム

～江田島市日本語クラブ事業の状況について～

広島県 江田島市 市民生活部 人権推進課

江田島市の外国人市民の状況

(平成29年12月末現在)

■ 総人口 24,082人 少子高齢，減少に歯止めがきかない，島内の労働不足

■ 外国人人口 764人 人口比は，3.17% 県内でも上位。
夏場に減少，冬場は増加(フィリピン人)
市内の各集落に分散して居住

■ 地域内の上位5か国と在留資格

①ベトナム231 ②フィリピン168 ③中国168 ④インドネシア119 ⑤バングラディシュ17

①技能実習2号口252 ②技能実習1号口180 ③特定活動106 ④永住者88 ⑤定住者66

○主に従事している仕事 (造船，船舶解体業，カキ養殖他水産業など)



○フィリピン人の多くは，永住者・定住者。他国は，技能実習生・特定活動。

…フィリピン人は，家族・世帯での来日も多い

⇒医療，保険(健)，教育等での関わり

日本語クラブの実施状況①

- 今年4月から、第1・第3日曜日、13時30分～15時30分で開催(3月まで継続)
 場所は、市内の中央部にあるショッピング・センター会議室で
 - 外国人自らが、買い物で多く利用。
 - 自転車・公共のバスを利用。⇒乗用車による参加者に便乗して参加するケースも増加
- 外国人延べ参加者 217人 (平均10.9人)
- 日本人スタッフ等 176人 (平均 8.8人)

【取り組みの内容】

- ①試行しながら、課題を解決 ➡終了後、コーディネーター会議
- ②多くの外国人が、楽しく参加 ➡ティー・タイム、レクリエーション
- ③日常生活をサポート ➡心温かく、人がつながる教室



日本語クラブの実施状況②

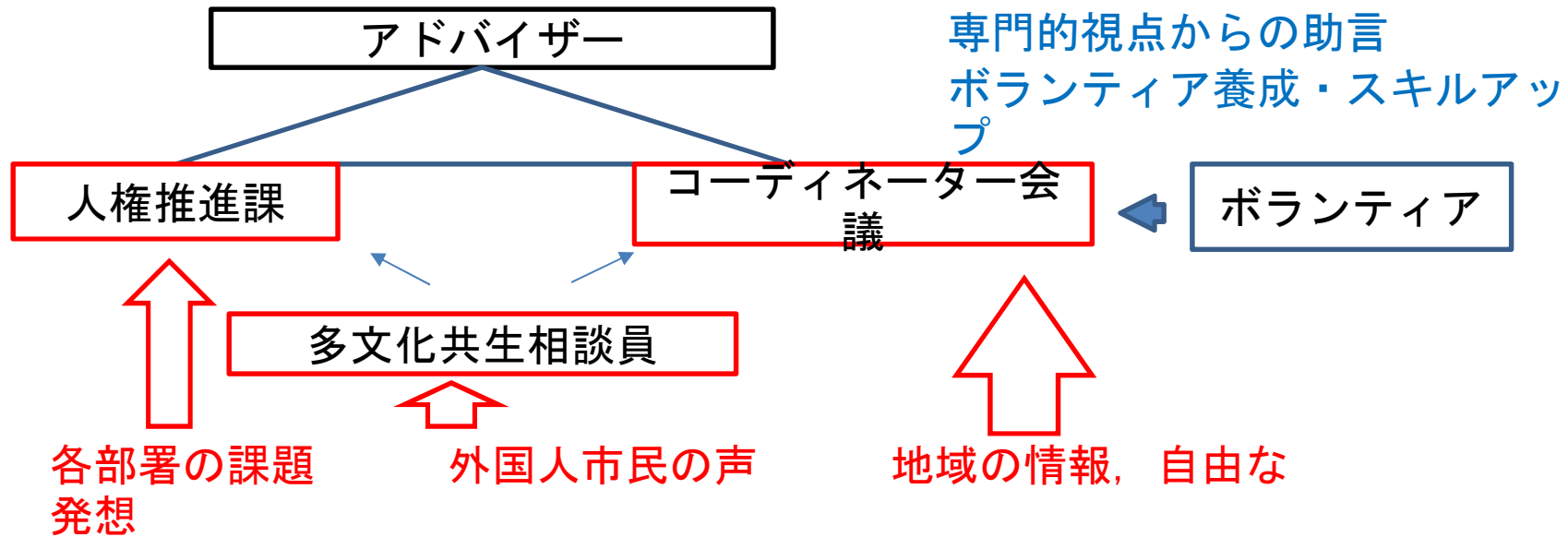
【クラブの特徴】

- ①当初に比べ、参加者が減少、後半は再度増加。
 - ・ニーズに対応できているか？PR不足はないか？
 - ・フィリピン人市民の特徴…夏場は、帰国のため減少し、冬場に再来日。

- ②参加者数より、参加者の意欲を重視。(当初からの意識の転換)
 - ア 技能実習生の参加者
 - ・中国人参加者は、ほとんど居なかった。(仕事・労働で疲れる。)
 - ・ベトナム人参加者は、日本語学習意欲が高い。⇒日本語能力試験
 - イ フィリピン人の参加者
 - ・多文化相談員からのPRにより周知される効果が大
 - ・永住者や定住者が多く、家族で滞在し、生活での日本語ニーズが高い。(仮名やカタカナはわかるため、漢字を学びたい。)
 - ウ 企業単位での参加者…職場以外の人と接し、新しい出会い・交流



事業の実施体制図



■どんな人がコーディネーターに

- ①チーフ・コーディネーター⇒昨年から継続, 日本語教師の経験あり
- ②サブ・コーディネーター⇒国際交流ボランティア代表, 昨年企画で参加
- ③コーディネーターA⇒講座受講生, 海外生活の経験あり
- ④コーディネーターB⇒講座受講生, 元教員, 現在も外国人児童を指導
- ⑤コーディネーターC⇒講座受講生, 現在子育ての最中

コーディネーターの主な役割

赤字は、チーフコーディネーターと人権推進課、
青地は、チーフコーディネーター中心

1 ニーズ調査・延べ30.5時間

- ・「何のために参加したのか、どんなことをしたいのか」からスタート
- ・みんなで調査⇒チーフコーディネーターとの意見交換，多文化共生相談員も交えながら
- ・多文化共生マネージャーや日本語指導者等との意見交換

2 体制整備のための調整・延べ137.5時間

- ・チーフコーディネーター及びサブコーディネーター，コーディネーター会議，アドバイザーからの助言

・コーディネーターミーティングの準備・調整，担当課との意見交換

3 人材育成のための調整・延べ50.0時間

- ・チーフコーディネーター，コーディネーター会議・アドバイザー，コーディネーター会議

4 日本語教室開設に向けた調整・延べ61.0時間

- ・チーフコーディネーターと意見調整，報告書作成・資料整理，アドバイザーと協議
- ・情報公開（ホームページ管理），日本語クラブのPR，他市の教室見学

5 教材作成に向けた調整・延べ103.0時間

- ・調査研究・資料整理，教材準備，関係者との談話，テキスト分析
- ・コーディネーター研修での課題研究，資料作成（スターター・キット）

6 その他（教室運営ほか）・延べ115.0時間

実際に運営，学習者の振り返りの手伝い，学習カルテの整理，報告書作成

アドバイザーの主な活動・助言

【初年度】教室の立ち上げまで—「想像」と「創造」の支援

- ①「地域日本語教育」について共に考える
 - ・地域の課題は何か
 - ・そのために、何ができるか/しなければならないか
 - ・課題解決のために、どんなリソースが活用できるか
 - ・これから、どんな地域にしていきたいか

- ②きっかけ作り…ミーティング・研修会・イベント等を通して
 - ・人と人の出会いの場/キーパーソン・協力者との出会い
 - ・外国人市民の声を聴く機会
 - ・「どうすれば…」を、みんなで考える機会

【今年度(2年目)】教室を立ち上げてから…

- ①「捌りどころ」であり「伴走者」
- ②「共感できる当事者」であり「冷静な観察者」
…コーディネーターとの意見交換, 問題点や悩みへの助言, フォロー

日本語クラブの成果と課題

■ 定期的な教室の継続

- ① 受講生が定着
 - ・当面は、今の場所で継続。ただ、参加者が多いと手狭になりつつある。
 - ・教室に活気があると、スタッフの士気も上がる。

- ② 新たな参加者が、依然続いている。
 - ・まだまだ周知が完全でない。PRの改善が必要。
 - ・チーフコーディネーターによるホームページも開設。

- ③ コーディネーター・ボランティアなどのスタッフの成長
 - ・当初は不安だらけであったスタッフも、だんだん慣れて来た。
 - ⇒開始当初から比べると、教室運営や指導技術もかなり向上。自信もつく。

- ④ スタッフの安定した協力、新たなスタッフの確保
 - ・7～8人のスタッフで対応。負担が大きい⇒新しいスタッフの育成
 - ・いろいろな場所で開催するとなれば、もっと協力者も必要。

日本語クラブの今後の予定

- 参加者は熱心に学んでおり、もっと支援していきたい。
 - ・日本語のレベルアップを希望するベトナム人の技能実習生
⇒自らが学習ニーズを伝えるようになって来た。日本語で質問・会話
 - ・日本で生まれた子供のため、生活の言葉を学ぶフィリピン人のお母さん。
⇒子供が言葉を覚え始め、日本語でしつけを行っている。

- 日本語学習に拘らず、交流、生活支援の場としての取組
 - ・日本の文化・行事を取り入れる事には、成功している。
 - ・学習者以外の外国人市民にも体験してもらいたい。
 - ・江田島市らしい、まちづくり。思い出づくり。

- 外国人市民が住んでいる近くの場所で、
都合の良い時間に開催してほしいニーズ
 - ・スタッフの確保、事業所の理解など課題を先送りしており解決を目指す。
 - ・ニーズと協力があれば、事業所への出前講座等の展開も検討していく。